

本気でチャレンジ みんなで笑顔



喜んでくれることが何より幸せ。(*^o^*)

3年ほど前から趣味でドローンを始めました。ドローンは機体の重さが100g以上になると、機体登録や場所によって飛行許可申請が必要になるなど、国土交通省や航空法の規定があります。最近では、赤外線カメラ付きのものや、農業用、水中用など、多種多様なドローンがあります。

私は、幼い頃から可愛がってくれた農家Mさん(79歳)の農業支援ボランティアをしてきました。Mさんのトラックの助手席に乗り込み、荷台に積まれた1,000Lのタンクに水を入れ、水稻に農薬を噴霧する人の動きに合わせてホースを伸ばしたり、巻き取ったりするボランティアです。稲穂の芽吹きはじめるお盆時期の作業は、散布用ホースの重さに加え、炎天下での重労働に悲鳴を上げています。(^▽^)

趣味ではじめたドローンが、高齢の農家さんのお役に立てればと思い、農業用ドローンの操縦資格を取得しました。

農協さんが用意したカメムシ駆除用の薬剤を今年の夏は、ドローンで散布しました。ドローン散布の様子を見学にきた後継者さんたちが、「これなら俺でもできるな〜」、「スマート農業って、こういうことか〜」と、ドローン散布の様子を真剣に見ていました。



ドローン散布は、風速3m以下の早朝に行います。10a(約1反)の散布は、約1分で終わります。

カメムシの被害を心配していたMさんも、ドローン散布に立ち会ってくれました。昨年まで2時間かかった人力噴霧が、今年はドローンで、2分で終わりました。

散布後、Mさんに「本当に助かるよ〜。ありがとう!」と、言ってもらえて本当に嬉しかったです。人が喜んでくれることが、何より嬉しいことです。お世話になってきたベテラン農家さんのお役に立てて幸せです。(*^o^*)

今年の夏は、スーパーにお米がない時期がありました。Mさんのお手伝いをしているので、最近の異常気象や害虫等の被害を受けずに稲穂が無事に収穫できることを心から願っていました。毎日の食べられる白米、食事のありがたさを実感する秋です。

近年は、未耕作地や遊休地、空き地が増えています。背丈以上の雑草がうっそうと生えていて、イノシシなどの住みかになっていないか心配な場所もあります。野生動物との共存は必要ですが、丹精込めた農作物が荒らされたり、地域の住民がイノシシや熊に遭遇しない安心・安全な地域づくりのお手伝いをしたいと思っています。

学校の教育環境も同様です。横地小に通う子どもたちや教職員が安心・安全に学べる教育環境を構築したいと考えています。

(文責：相田)